



写真 トウキョウサンショウウオ

# かわはく No.51

## CONTENTS

平成26年度1月企画展案内「写真で見る埼玉の生きもの」……………	2
連携展「荒川図画コンクール展」開催案内……………	2
スロープ展示案内「学芸員の撮った写真展」……………	3
平成26年度夏期企画展開催報告「ふしぎ・かっこいい 埼玉と日本の爬虫類」…	4
かわはく体験教室より報告……………	5
平成26年度「荒川ゼミナール～青空教室～」開催レポート ……	6
館長のつぶやき「プータントウガラシ」……………	7
案内：2015年は国際土壌年 ……	7



平成26年度1月企画展案内

# 写真で見る埼玉の生きものの

期間：2015年1月24日(土)～2月22日(日)

埼玉県は720万人の人口を数え、政令指定都市さいたま市をはじめとする都市が中心をなす県ですが、多くの野生動物も暮らしています。本展示では埼玉県に生息する野生動物として、けもの、鳥、魚、両生類、爬虫類などに注目しました。

奥秩父山地に始まる、県を代表する河川である

荒川の流れに沿って、東京湾に近づく下流域までその周辺で見られる野生動物を写真で紹介します。特に流域の地形や生息環境にリンクし、トピックを交え、標本などを加えての展示を予定しています。本展示を通じ、郷土の野生動物が身近に感じていただければ幸いです。（研究交流部 藤田宏之）



ニホンザル（秩父市）



コハクチョウ（寄居町）

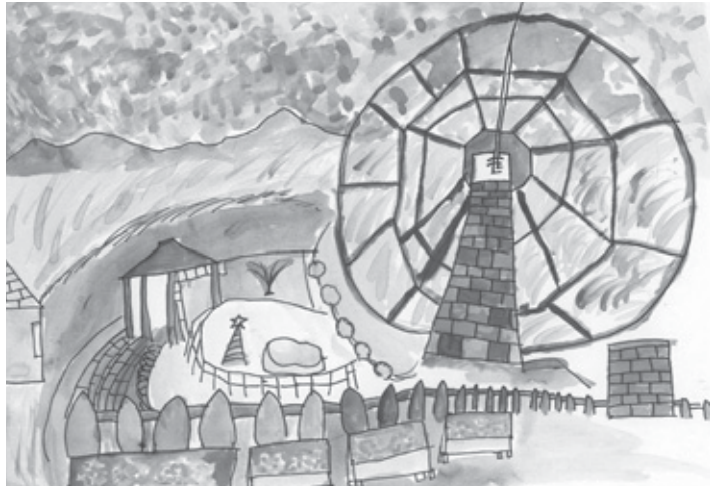
## 連携展 荒川図画コンクール展

開催案内

2014年12月20日～2015年1月12日

荒川図画コンクールは国土交通省荒川上流河川事務所と連携した作品展です。小学生を対象に荒川本流・支流や流域のダムなどの風景を題材としています。図画コンクールは平成2年から開催しており、多数の応募の中から特選、優秀賞、入賞が90点、佳作30点が厳選されます。

かわはくでは入賞作品120点全てを展示しますので是非ご家族で見に来てください。（研究交流部 森 圭子）



川の博物館館長賞 坂戸市立三芳野小学校 4年 松元 那奈さん





スロープ展示案内

# 学芸員の撮った写真展

期間：12月2日(火)～2015年3月8日(日)

調査でよく訪れたブータン、そこには日本の原風景を見ているような棚田が広がっています。棚田の中には農家が点在していますが、そこに行く道路は見あたりません。やはりどこか異国の雰囲気を感じさせています。青いブルーポピーや牛に似ているがどこか愛嬌のあるターキンなど、ブータンの生き物たちは、さすがヒマラヤ山脈の偉大さを感じさせます。また、日本でもなじみのあるシクナゲやランの仲間などの植物もあります。

(館長 平山良治)

鹿児島県の島嶼部であるトカラ列島にはじまり、奄美諸島、沖縄諸島、八重山諸島など多くの島々が連なる琉球列島は、日本列島とは全く違う生物相を持っています。私の専門である両生類も例外ではなく、琉球列島固有のカエルやイモリが多く生息しています。その固有の珍しい種も開発や森林伐採等環境の変化によって安泰ではなく、さらに近年はマングースなど新たに侵入した外来種による捕食もみられ、数を減らしています。

私はそれらカエルやイモリの魅力に取りつかれた者ですが、野生の姿を狙いあししげく現地に通い、大型から小型まで様々なカエルやイモリを撮影し続けています。中でもアマミイシカワガエルは輝くような色彩と大きな身体、湿ったコケと融合したその姿は、亜熱帯の森へ誘ってくれます。

(研究交流部 藤田宏之)

私の専門は土壌です。何年前かにブータンという国に行くことになり、土壌の調査を行う機会に恵まれました。ブータン国土の南側はインド平原の北端にあたります。そしてインド平原からぐっと標高があがり、ヒマラヤ山脈へと続きます。私のこれまでの調査で最も標高の高い地点の写真を含め、なかなか見られないという点では貴重なブータンの土壌と、身近な場所であるかわはくで調査した荒川がつくった土壌を写真で紹介します。

(研究交流部 森 圭子)

昆虫って何種類くらいいるんでしょう？私はガロアムシという虫をテーマに研究しています。もちろんガロアムシ以外のムシも好きですが、ムシはあまりにも多くの種類があるのですべてを調べることができないのが悩みの一つです。調査や趣味の旅の途中で出会ったムシの写真を紹介します。

(研究交流部 石井克彦)

当館では荒川ゼミナール（以下「荒ゼミ」）というイベントをここ数年開催してまいりました（イベントの詳細についてはP6をご参照ください）。荒ゼミでは、荒川流域沿いをメインエリアに様々なウォーキングイベントを開催しております。今回の展示では、これらウォーキングイベントで配布した、ウォーキングマップや、イベントを企画する中で撮影できた写真を中心に展示します。

(研究交流部 羽田武朗)

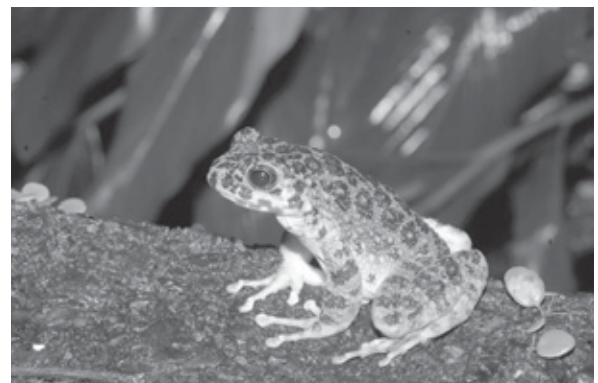
私は、活火山が作り出す風景の写真を紹介します。南米チリのビジャリカ (Villarrica) 火山は、山頂の火口に溶岩湖を形成しています。夜にみられた「火映現象」という、火口上空の水蒸気などに溶岩湖の色が赤く映えた写真を紹介します。また、富士山の写真の中からは、日の出または日没時に富士山頂と太陽が重なった瞬間をとらえた「ダイヤモンド富士」と呼ばれる写真を紹介します。

(研究交流部 杉内由佳)

151。これは日本動物園水族館協会に加盟している園館の数\*です。学生の頃、人が動物や魚の日常を模して造った空間と、そこに展示されているものに興味を持ち、各地の動物園と水族館に行き白黒写真を撮っていました。水族館で薄暗い水槽の中を泳ぎ、漂う魚を見ていると、何を考えているのか知りたくなります。海にいた頃の記憶はあるのだろうか、などとあれこれ想像しながら撮影をしていました。当時はフィルムを使って、暗室で印画紙にプリントすることが主流でした。今回はその当時にプリントした写真を展示します。

\*公益社団法人日本動物園水族館協会サイト  
<http://www.jaza.jp/about.html> 2014.11.13.より

(研究交流部 丸尾いと)



アマミイシカワガエル (鹿児島県奄美大島)



## ふしぎ・かっこいい 埼玉と日本の爬虫類

開催期間：平成26年7月12日～9月7日

企画展「ふしぎ・かっこいい 埼玉と日本の爬虫類」では埼玉県内に生息する身近な爬虫類を主役とし、日本国内でみられる様々な種も紹介しました。その報告をしたいと思います。

### ●リバーホール生体展示

本展示のメインは第二展示室ですが、リバーホールでの生体展示ももうひとつの目玉としました。埼玉県では最大で（2m超のものもいます）最もふつうのヘビであるアオダイショウはじめに、田んぼでみかけることの多いシマヘビ、かわはくでは最もよくみかけるヒガシニホントカゲなど身近な爬虫類を展示しました。また、沖縄など琉球列島でみられる赤と黒の派手な模様のヘビ、アカマタも展示しました。

### ●第二展示室

第二展示室では、まず開催前より情報を募集した市民参加のモニタリングによる、カナヘビ、ヤモリなど、身近な爬虫類がどれだけ分布しているかをテーマとした企画「みんなでつくる埼玉県の爬虫類マップ」を展示しました。おかげさまでたくさんの情報／写真のご提供をいただき、予想以上のデータを積み重ねることができました。

パネル展示は爬虫類に関する基本的な話から始めて、埼玉県内でみられる種すべてを写真で紹介しました。また人と爬虫類の関係として捨てガメなどのペット問題やマムシなど毒ヘビとの関わりについて紹介しました。

標本の展示はヘビ、カメをはじめとした爬虫類、一般にはあまり知られていない爬虫類の天敵であるイタチ、カラスなどを紹介しました。他館よりお借りした標本だけでなく、今回の展示に合わせて一般的にはフリーズドライと呼ばれる凍結乾燥標本を10数体製作しました。

ほかには、図鑑など様々な書籍、たのしい爬虫類グッズ、ヘビなどを原料とした健康食品など、博物館ならではの小物を揃えての紹介もしました。

### ●企画展関連イベント

関連イベントとして、まずはゲストを招いてのトークイベントを2回開催しました。日本蛇族学術研究所の三保尚志氏には、埼玉県でみられる毒ヘビであるニホンマムシやヤマカガシなどを詳しく解

説していただきました。また、日本科学未来館の大淵希郷氏には、「爬虫類のふしぎ」をテーマに爬虫類にまつわる様々な不思議について解説していただきました。

学芸員によるイベントとして、沖縄や奄美諸島で親しまれているヘビの皮を使った郷土の楽器「三線」について、石井学芸員の解説を交えながら楽器にふれる体験を実施しました。



トークイベントの様子

爬虫類は好き嫌いがはっきりする生きものといえるでしょうが、好きでも嫌いでも興味のわく生きものではないでしょうか。ご覧になった多くの来館者にとって、身近な爬虫類が少しでも「気になる存在」になったとすれば本展示の目的が達成できたと思います。（研究交流部 藤田宏之）

### 展示中のアオダイショウが産卵

開催中の出来事として、展示していたアオダイショウがケージ内で産卵しました。朝の開館準備の巡回の際、すでに10個近くの卵が産み落とされ、さいごは全部で16個となりました。産卵後はしばらくの間消耗して別の個体と交代していましたが、一週間ほどで元気になり、展示に復帰しました。ちなみに卵はすべて無事孵化しました。



ケージ内で産卵したアオダイショウ



## 落ち葉をめくってみよう！土の不思議教室



この体験教室は普段あまり目にしないかもしれない地面の下に注目して土の感触や面白さについて何か発見してもらうことをねらいとしました。

まずはかわはく敷地内の林の下へ。ここで落ち葉を少しずつめくり、どんなものが落ちているのか、下には何があるのかを観察しました。少しずつめくっていくと、「土がある」ということはわかってもらえたかと思います。また、落ち葉だけではなく、木の実や花も発見できました。晴れ続きのお天気で地表面は乾燥していましたが、落ち葉をめくった下の土は少ししっとりひんやりしていることもわかりました。

次はさらにその下の土の様子を観察するため、事前に掘ってあった土壌断面（穴を掘って土を横から見た面）を観察しました。過去に堆積した石ころと対照的な土の手触りや木や草の根がたくさん入っていることを確認しました。

次に室内へ戻って実験。土は石と何が違う？ということ調べるための実験をしました。土にはたくさんの“すきま”があることがわかつ

てもらえたでしょうか。

また、落ち葉の観察をした時に採取した土から土壌動物を追い出す装置を使って出てきた虫たちを実体顕微鏡で観察しました。やはり生き物はおもしろいですね。子供たちも楽しんで顕微鏡をのぞいていました。

土はすきまがたくさんあって、そこに水や空気や生き物がいること、土が植物、ひいては私たち動物の命を育てていることを少しでも感じてもらえれば嬉しいところです。

(研究交流部 森 圭子)



野外で落ち葉をめくって観察

## ミクロの世界をのぞいてみよう



川の博物館には顕微鏡が何種類かあります。もっとも倍率を高くすることのできる走査型電子顕微鏡をはじめとして、双眼実体顕微鏡、解剖顕微鏡、携帯型双眼実体顕微鏡などです。

今回かわはく体験教室では、双眼実体顕微鏡を使えるようになってもらい、身の回りにある様々なものを拡大して楽しんでもらいました。

最初はワープロソフトを使って1ポイントの大きさに打ち出した手紙を用意しました。その文字を眺めてもらいます。到底肉眼では確認できないほどの小ささです。そこで顕微鏡を通して見てもらいます。しかし顕微鏡は見たい対象物をレンズの下に置いたからといってすぐに見られるものではありません。調節ねじを使ってピントを使って合わせてもらいます。ねじを回して

いるうちにどこかでピントが合うようになります。

紙は平べったいので一度見えるようになるとすべての文字を読むことができます。ピントの合わせ方に慣れたところで、紙をそっとクシャクシャにしてもらって再度チャレンジ。

紙に凹凸ができて難易度が上がります。見たいところにピントを合わせられるようになれば、顕微鏡の使い方はマスターしたのも同然です。このように練習を行ってから用意した素材を自由に観察してもらいました。星の砂や貝の入った砂、昆虫標本や土など様々なものを観察し、また、博物館の敷地から見たいものを採集してもらい観察しました。終わりになるころには皆さん顕微鏡の使い方もマスターし、楽しく観察することができました。(研究交流部 石井克彦)





## 平成26年度「荒川ゼミナール～青空教室～」開催レポート

当館では、ここ数年「荒川ゼミナール」(以下「荒ゼミ」)というイベントを開催してまいりました。

これまで、何度かわはくはくにより開催報告を掲載してまいりましたので、該当記事をお読みになられて「荒ゼミ」のイベント内容を知っていただいた方や、興味を持っていただいた方、そして実際に御参加いただいた方がいらっしゃいますと、イベント担当者としても嬉しい限りです。

今回も、今年度実施しました「荒ゼミ」イベントの中から、筆者が担当させていただいた「新」ウォーキングイベントについて御報告させていただきたいと思います。

「荒ゼミ」では、室内で講演会のようなイベントを行うこともありますが、その多くはウォーキングをしながら、参加者の皆様に、回毎に設定した「テーマ」について学んでいただく形で、これまでは実施してまいりました。

ただ、かわはくに勤務している中で、来館された方やイベント参加者の方々から、以下のような問い合わせをいただくことが何度もありました。

例えば、「荒川を歩くモデルコースはないの?」、「荒川の歴史や自然を歩きながら学ぶルートはないの?」とか、「荒川の流域沿いを歩いてみたいけど、堤防沿いや周辺の道路は安全なの?」などなど。

その都度答えられる範囲で回答はするものの、スタッフとしても、回答に悩むところがあるものも事実…確かに、巷にはウォーキングマップがあふれているけど、荒川全流域を網羅しているものはない…

ならいっそ、「荒ゼミ」のウォーキングイベントの原点に帰り、「荒川流域を純粹に楽しむウォーキング」を企画してみようと思い、今年度から「荒川をとことん歩く」というカテゴリーのウォーキングイベントを企画、実施することにしました。

記念すべき1回目は、新緑の5月に実施!秩父鉄道浦山口駅を出発し、同じく秩父鉄道の大野原駅までの荒川兩岸を歩きました。

実は、本イベントを企画するにあたって、じっくり考えたことがあります。それは「どのようなスタイルでウォーキングをするか?」ということ。当館のウォーキングイベントは、学芸員の解説がつくことがセールスポイントになっていました。なので、やはりただただ歩くのではなく、解説はある程度忘れずにしっかり行う。「歩く距離はどうするか?」という点に関しては、これまでよりやや長めに設定し、荒川の流れを楽しんでいただく。また「テーマ設定はどうするか?」という点

に関しては、やはりただただ歩くだけでは、個人でウォーキングを楽しんでもらえれば済むことになるので、これまでのように毎回テーマを設定し、テーマに沿った解説ポイントも設けられるようにする。このようなスタイルでウォーキングイベントを企画することにしました。

話を戻して、では記念すべき第1回目はどんなルートを設定してみたのか?まずは荒川上流域の特徴的な地形の1つである、V字谷を楽しんでいただくために、浦山ダムを見学。次は、荒川下流部に広がる、現代の直線化された河道ではない、本来の自然の川の姿を楽しんでいただくために、巴川橋から穿入蛇行を見学。そして、秩父盆地内に発達している、河岸段丘を実感していただくため、また秩父札所の午歳総開帳にあわせて、札所を見学。

このように書くと、疑問を持たれる方もいるのでは?河岸段丘を実感するために札所の見学?実は、今回は「巡礼古道」と呼ばれる、古い巡礼道を辿って札所を巡りました。昔の道は、尾根や丘陵を意識して整備されているため、古道を辿ることで、河岸段丘等も実感できるのです。

今年度からスタートさせた、「荒川をとことん歩く」。最終目標は、荒川を一筆書きできるウォーキングルートを作ること。今後も企画・実施していく予定ですので、御興味を持たれた方はぜひ一度御参加ください。(研究交流部 羽田武朗)



記念すべき第1回目。浦山ダム堰堤にて



今年度のゴール地点付近(長瀬町井戸)



館長の  
つぶやき

## 「ブータントウガラシ」

パロ空港からティンパーに向かうと農家の赤い屋根が目につく。なぜ屋根が赤いかと尋ねたら唐辛子を干しているのだとの答えだった。私の小さい頃の日本でも納屋や庭などに農作物を干したりしてある光景はよく見かけたので違和感はなかった。日本の幕末から明治はじめの日本はかくのごときであつたらうという風景で、古き日本をほうふつさせるものであつた。これがブータンでの唐辛子の嵐に会う前兆であつた。最初は外国人であるということで、出される食事は辛みを抑えたものであつた。回を重ねるに従い、待遇があまりよろしくなくなり(?)、現地の食事をとることが多く、激辛の嵐となつた。驚愕なことは、トウガラシを香辛料ではなく野菜として利用していることである。代表的料理エマダツイは、トウガラシとチーズの

煮込みで、これを赤い米と一緒に食べるのである。辛いのが好きな人にはおすすめの一品である。

世界で辛い食事といえば、お隣の韓国の料理、中国の四川料理、タイの料理それにメキシコ料理などが有名である。ブータンに行くときに、タイで1泊するが、このときグリーンカレーとトムヤンクンを必ず食べる。行きの時は非常に辛く感じ汗だくで食べるが、帰国時に食べると辛さはあまり感じなくてスープのコクが感じられる。如何にブータンで鍛えられたかである。

やはり辛い食事はブータンが世界一である。

(館長 平山良治)



ブータンの家庭料理

案内

## 2015年は国際土壌年

2015年は国際土壌年ということをご存知でしょうか。国連はほぼ毎年、国際〇△年というテーマを採択しています。過去には国際児童年(1979)や国際宇宙年(1992)があり覚えていらっしゃる方も多いかもしれません。近年では国際生物多様性年(2010)、国際森林年(2011)が採択されました。ちなみに今年(2014)は国際家族農業年、世界結晶年などが採択されています(複数のテーマの年もあり)。

国際土壌年というテーマは2013年の国際連合総会で採択されました。また、国際土壌科学連合という団体が12月5日を世界土壌デーと定めていた経緯があり、国際土壌年の採択と同時に12月5日を世界土壌デーとするということも定められました。12月5日は土壌科学の発展や土壌保全に貢献してきたタイの王様の誕生日ということです。

さて、なぜ土壌なのか。土壌は地味で目立たず、何がいの?と思われるかも知れません。しかし、土壌がなければ私たち生命は生きていくことはできません。植物は土に根差し、

伸びていきます。そして枯れば土へ還ります。動物も還ります。土壌はまさに命が循環する場であり、命の元です。国連の決議文(抜粋)には「土壌は農業開発、生態系の基本的機能および食糧安全保障の基盤であることから、地球上の生命を維持する要です。さらに、土壌には、経済成長、生物多様性、持続可能な農業と食糧の安全保障、貧困撲滅、女性の地位向上、気候変動への対応、水利用の改善など、様々な問題を解決する可能性が秘められています。この土壌を正しく認識し、適切に管理し、守っていくことこそが「我々の望む未来(The future we want)」の実現に大きく貢献します。限りある土壌資源を見つめ直し、その持続性を増進すること。それが今まさに求められています。(2015国際土壌年ポータルサイト [http://international\\_yearofsoils2015.wordpress.com/](http://international_yearofsoils2015.wordpress.com/)より転載)」とあります。

この機会に皆さんも是非「土壌」に注目してみましよう。(研究交流部 森 圭子)

かわはくでは来年度に国際土壌年に関連した展示やイベントを予定しています。

### 12月

**12/20/土~1/12/月・祝**

連携展「平成26年度荒川図画コンクール展」

**12/2/火~3/8/日**

スロープ展「学芸員の撮った写真展」

**12/5/金~1/12/月・祝**

かわはくイルミネーション

時間：夕暮れ~

内容：かわはくを素敵にライトアップ。

土日は大水車もライトアップします。

**6/土**

荒川ゼミナールⅢ 川の恵みを訪ねて「風布小林のみかん」

時間：10：00~16：00（予定）

集合・解散：秩父鉄道波久礼駅

費用：100円（保険料）

定員：20名（申込順） ☎

内容：駅から自然観察をしながら風布地域のみかん園を訪ね、特有の地形とみかんの歴史を学びます。  
（大雪の影響で、みかん狩りはできません）**7/日**

かわはくであそぼう・まなぼう

「紅葉の押し葉カードをつくろう」

時間：13：30~15：30

費用：無料

内容：紅葉しているはっぱを使って押し葉カードを作ります。

**13/土**

かわはく体験教室「シラスの中のチリモンさがし」

時間：13：30~15：30

費用：100円（材料費）

定員：20人（申込順） ☎

対象：小学4年生以上

内容：シラスの中に入っているいろいろな生き物（エビ・カニなど）を調べます。

**14/日**

学芸員ワークショップ

費用：無料

内容：昆虫のお話し



### 1月

**1/24/土~2/22/日**

1月企画展「写真で見る埼玉の生きもの」

**7/水**

かわはくであそぼう・まなぼう「お正月あそび」

時間：①10：00~12：00 ②13：00~15：00

費用：無料

内容：お正月の伝統あそびを体験できます。

**17/土**

かわはく体験教室「コハクみがきにチャレンジ！」

時間：13：30~15：30

費用：500円（材料費）

定員：20人（申込順） ☎

内容：コハクをみがいてみよう。中に虫がいるかも…？

### 2月

**1/日**

かわはくであそぼう・まなぼう

「かわはくでまめまき」

時間：①11：30 ②14：30（豆まきの時間・予定）

費用：無料

内容：ワークショップで折り紙を使って、豆まき用の餅や鬼のお面を作り、リバーホールなどでは実際に豆まきをします。

**7/土  
8/日**

かわはく体験教室「化石クリーニングに挑戦！」

時間：13：00~16：00

費用：500円（材料費）

対象：小学4年生以上

定員：各回8組（申込順） ☎

内容：北海道で採集してきた本物のアンモナイト化石をクリーニングします。（お子様1人につき保護者の方1人にお手伝いいただきます）

**15/日**

学芸員ワークショップ

費用：無料

内容：地学のお話し

### 3月

**3/10/火~**

スロープ展「よりの桜」

**3/14/土~5/10/日**

平成26年度春期企画展

「河川改修の歴史と人々の暮らし」

**14/土**

かわはく体験教室「かえるの卵を観察しよう」

時間：13：30~15：30

費用：100円（保険料）

定員：20名（申込順） ☎

内容：早春に産卵するカエルの卵を観察します。

**22/日**

かわはく春まつり

時間：10：00~16：00

内容：各種子供向けイベントを開催予定です。

**22/日**

かわはくであそぼう・まなぼう「科学あそび」

時間：13：30~15：30

費用：無料

内容：液体窒素を使った実験のデモンストレーション見学や、静電気あそびを体験できます。

**29/日**

荒川ゼミナールⅠ

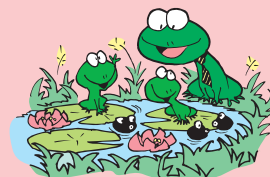
川がつくった地形を見に行こう 埼玉の砂丘編

時間：未定

費用：100円（保険料）

定員：20名（申込順） ☎

内容：古隅田川沿いの河畔砂丘など、川がつくった地形と周辺の史跡を巡ります。



ホームページでも紹介しています！

<http://www.river-museum.jp/>

【お願い】①行事は都合により変更になることもあります。ご了承下さい。②☎印のついた行事は事前申込みが必要です。開催日の1ヶ月前より電話またはFAX、E-メールでお申し込みください。費用に「保険料」が含まれるイベントの申込締切日は、各イベントの開催日の前日（午前中）までです。③定員になり次第締め切ります。④川の情報もお寄せ下さい。

編集・発行

埼玉県立川の博物館

〒369-1217 埼玉県大里郡寄居町大字小園39番地

TEL/048-581-8739(研究交流部) FAX/048-581-7332

Eメール/web-master@river-museum.jp/

彩の国  
埼玉県

2014年11月28日発行

